

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 3月 30日

【評価実施概要】

事業所番号	0173700261		
法人名	有限会社サービス企画		
事業所名	グループホームなかよしの家		
所在地	虻田郡洞爺湖町栄町51-1 (電話) 0142-76-3271		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成20年3月28日	評価確定日	平成20年4月4日

【情報提供票より】 (20年 3月 14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年 7月 31日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	7人, 非常勤 2人, 常勤換算 8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	3 階建ての	1 ~ 3 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	4~9月5,000円、10~3月10,000円	
敷金	有 (円) 〇 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要 (3月 14日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護 1	2	要介護 2	1		
要介護 3	3	要介護 4	3		
要介護 5	要支援 2				
年齢	平均 86 歳	最低	67 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	蜂村内科クリニック、友愛会歯科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR洞爺駅を目の前にし、隣には町役場が控えており、交通の便も行政とのコンタクトもともに至便の位置に立地している。眼前に内浦湾を望み、後ろの山向こうに景勝地国立公園洞爺湖を背負っている。運営者は長年、恵まれない高齢者を多く見てきてその支援の熱意に駆られて託老所を創始し、後、介護保険制度の開始に伴ってグループホームとして再出発して今日に至っている。1ユニットで鉄骨3階建てという、贅沢なスペースと造り、内装、装備を備え、遠赤外線の快適な暖房や特殊な浄水システムを導入するなど、優れた居住環境を提供している。運営者の熱い思いに導かれた職員により、信頼に満ちたチームワークで、暖かく穏やかな生活を実現する介護が行われている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	地域住民の理解を求める取り組みについては、役場のホールにホーム便りを掲示し、利用者の手芸作品などを展示することになって、進んでいる。職員研修については同業者の広域連合会を念頭に検討中である。リスク管理についてはヒヤリハットの記録方法を整理し直して改善した。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価表を全職員に配布し、検討を求めた上で会議を持ち、意見を出し合ったものを計画作成担当者がまとめた。項目の趣旨の理解に困難な部分があり、直ちに取り組みにつながるような事例はなかったが、日ごろの業務、介護を改めて見直す機会にはなった。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	前年に1回開催したきりで、まだ軌道には乗っていない。先の開催時には、ホームの方から運営の実情、利用者の状況、認知症の知識などの報告をし、町役場担当から町の実情、老人クラブ、町内会からそれぞれ地域交流について発言、報告があった。具体的に取り組みに生かすまでには至っていない。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ぎりぎりまで状況が悪化し、いよいよ切羽詰ってから救いを求めて駆け込むようにして入居してくるケースが多いので、意見や苦情を言う余裕もないものと思われ、努めて問いかけ、促してはいるものの、意見や苦情らしきものが出ることはほとんどない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	自治会に加入し敬老会、盆踊り、運動会などの行事に参加して交流が行われている。また近くの小学校から総合学習の一環で児童の訪問を受け入れており、3~6年生の児童が数度にわたって来訪した。和太鼓や歌、手作り菓子などで利用者を楽しませ、お別れ会ではお年寄りが涙を見せる場面もあって、地域社会とのつながりが深められている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人間の魂の尊厳が まこと自由に生きられるホームを目指し努めます」という、事業所独自の理念を掲げている。	○	現在の根本的な理念を維持しつつも、具体的な実務に即して、より噛み砕いた内容に展開するとともに、地域密着の理念も加えた、新しい理念の検討を期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は額に入れてリビングの見やすいところに掲げられ、職員にはよく記憶されており、日々の実践の中で指針として意識されている。毎月のミーティングの中で折に触れ、引き合いに出されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し敬老会、盆踊り、運動会などの行事に参加して交流ができています。また近くの小学校から総合学習の一環で児童の訪問を受け入れており、3～6年生の児童が数度にわたって来訪し、地域とのつながりが深められている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価表を全職員に配布し、検討を求めた上で会議を持ち、意見を出し合ったものを計画作成担当者がまとめた。項目の趣旨の理解に困難な部分があり、直ちに取り組みにつながるような事例はなかったが、日ごろの業務、介護を改めて見直す機会にはなった。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前年に1回開催したきりで、まだ軌道には乗っていない。先の開催時には、ホームの方から運営の実情、認知症の知識などの報告をし、町役場担当、老人クラブ、町内会からそれぞれ発言、報告があった。具体的に取り組みに生かすまでには至っていない。	○	徐々に開催の頻度を高めてゆくよう、期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	すぐ隣が町役場であるという利便性もあって、町の担当者との交流は頻繁である。実務的な用件が主であるが、役場からの依頼で応急の入居者を引き受けるなどの連携もとられている。	○	さらに進んで、町とともにサービスの質の向上に連携して取り組むような方向へ発展させるよう、期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム全体の暮らしぶりの報告と、個人別の状況報告を合わせた「なかよし便り」を毎月発行している。家族は毎週ないし1~2ヶ月に一度は来訪しているのでその折に詳細な報告をしている。体調の変化があった場合などには随時電話で連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ぎりぎりまで状況が悪化し、いよいよ切羽詰ってから救いを求めて駆け込むようにして入居してくるケースが多いので、意見や苦情を言う余裕もないものと思われ、努めて問いかけ、促してはいるものの、意見や苦情らしきものが出ることはほとんどない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	単一事業法人なので本人事情による退職以外に異動はない。運営者は職員との個別の面談を通じて事情を把握し、離職を防ぐ努力をしている。離職の場合は利用者に事情を説明し、お別れ会を開いてプレゼントを交換するなどして別れを惜しんでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修といえばほとんどが札幌まで何泊かで出張することになる困難さがあるので、計画的な職員研修は行われていない。スタッフ研修や呼びかけがあった研修には順次参加している。内部研修は、問題が発生するなど、必要が生じた場合に管理者が適宜判断して行っている。	○	外部研修が難しい分、内部研修を重視し、外部講師を招く、外部研修参加者を報告者とする、職員が当番制でレポートするチュートリアル方式をとる、などの工夫をして充実させることを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日且地区のグループホームで、昨年、研修を目的に広域連合会を結成した。当ホームが今年の当番幹事役となる。そのほか、管理者が、近隣のグループホーム数カ所と個人的なつながりで情報交換などの交流を行っている。	○	発足して間もない広域連合会の育成発展に貢献しつつ、これを足がかりに同業者同士の交流を深め、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動へと展開してゆくことを期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ぎりぎりまで状況が悪化し、いよいよ切羽詰ってから救いを求めて駆け込むようにして入居してくるケースが多いため、事前に訪問して馴染みの関係をつくるとか、あらかじめ体験や見学をするという余地のないのが現状である。中には家族が本人の意思に反して置いてゆくケースもある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ゲーム遊びや縫い物、食材の下ごしらえなどの家事の分担で、ともに過ごし、喜怒哀楽を分かちあっている。利用者の長い経験から生まれる生き方の知恵に感心し、苦労話に涙することもある。身近な知り合いが亡くなったときは悲しみをともにした。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろから利用者の様子に気を配り、意向の把握に努めている。意思疎通が特別困難な人はいないので、心を込めていねいに話しかけ、尋ねればその意味を理解してもらえ、率直な意向を聞かせてもらえる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式に基づいて、アセスメントを行っている。家族からの意見はあまりないが、訪問看護師や医師・理学療法士の意見を聞き、職員からの状況報告をふまえて介護計画を作成している。作成後は、毎月項目毎に全職員で確認している。介護計画は、家族に説明して、印鑑をもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	健康状態が安定している時は、3ヶ月毎の定期見直しを行っている。入退院などにより体調に変化が生じた時は、随時介護計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして、入院回避の対応ができる状況になっている。かかりつけ医への通院介助も柔軟に対応している。役場の要請で、急迫している高齢者の臨時的な受け入れにも、柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と相談し、家族や本人の希望を尊重し受診支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時から、本人、家族と一緒に話をして、方針を共有している。見守りも行い、以前も利用者の看取りの実績がある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員間で、具体的に改めて話し合う機会は設けていないが、日々の介護の中で、それぞれで気をつけて対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者から希望が出た時は、職員は希望に応じて、すぐ対応するようにしている。常に、利用者中心のペースで、一人ひとりの気持ちを大切にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、後片づけは、状況に応じて利用者と一緒にしている。献立は、食事の担当職員が考えて、その日の利用者の希望などを取り入れて調理している。職員は交代で、利用者と一緒に食事をして、楽しく食事できるように配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、利用者一人につき週2回を目標に、月、金の午後に入浴してもらっている。異性職員の入浴介助はあるが、現在は問題がない。入浴拒否者に対しては、職員の声かけでスムーズに入浴できている。月、金以外も入浴希望者には、柔軟に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の状況に合わせて、雑巾縫い、ホタテの殻むきなど、得意分野で力を発揮してもらえるようにしている。利用者に合わせて、トランプ、オセロ、かるたなどのゲームで、楽しく過ごせるように配慮している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は玄関のベンチで日光浴をしている。散歩を嫌がる利用者や、車いすの利用者は、ドライブに誘い、白鳥や桜、海などを見に行ったりしている。冬季は、役場のロビーに出かけたりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は、鍵をかけていない。窓から外出する姿がよく見えるので、外出した時は、見守り、利用者にあった対応を随時行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	隣に消防署があり、年2回消防署から指導に来て貰い、火災を想定して避難訓練や消火の訓練を、利用者、近隣住民と一緒にしている。災害マニュアルと役割分担、近隣住民を加えた災害時の連絡網を作成している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎日記録し、水分摂取量は体調により、随時利用者の状況を見て記録している。食事の献立は、栄養士に見てもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には、利用者と職員の手作りの、季節毎の壁面装飾が飾られ、季節感を感じる事ができる。利用者一人ひとりが、ゆったり座る事ができる、それぞれの椅子が置かれ、食事の準備の匂いを感じながら、落ち着いて過ごす事ができるようになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、利用者の馴染みの物が持ち込まれ、職員と利用者が一緒に掃除や整理整頓して、常に気持ちよく過ごせるような配慮をしている。壁には、利用者と職員が制作した人形やお花が飾られ、居心地よく過ごせるように工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。